

宇都宮市立東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さくらい本を読みますか。」の設問では、11冊以上、5冊～10冊と答えた人の合計割合が60%であり、県の割合を14.3ポイント上回っている。クラスで図書室を利用する時間を設けたり朝の学習の時間に担任が読み聞かせを行ったり、本と親しみ触れ合う時間を意識的に取り入れていくことで、さらに読書活動を充実させていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」の設問では、肯定割合が96.6%であり、県の肯定割合を7.7ポイント上回っている。常に、児童が前向きに学習に取り組めるように、学習することの意味を伝え、頑張ろうとしたこと、頑張ったこと、できるようになったことなどをこまめに取り上げて、称賛してきた。今後も児童を励まし、ほめて認める指導を継続していく。

○「算数の学習は好きですか」の設問では、肯定割合が76.3%であり、県の肯定割合を5.2ポイント上回っている。また、「算数の授業は内容は分かりますか」の設問では、肯定割合が90%と高い割合になっている。算数が好きで楽しいと感じながら学べるよう、今後も「できる」「分かる」が実感できる授業づくりに努めていく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の設問では、肯定割合が36.7%であり、県の肯定割合を28.2ポイント下回っている。また、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合が46.7%で、県の肯定割合を16.1ポイント下回っている。児童が主体的・意欲的に家庭学習に取り組めるよう、家庭学習強化週間時に自主学習ノートをクラス内で展示したり、保護者にサインやコメントをもらったりするなど家庭学習の取り組みを工夫しながら支援していく。

●「学校での役わりや係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」の設問では、肯定回答が90%であるのに、「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の設問では、肯定割合は53.3%であり、県の肯定割合を14.7ポイント下回っている。帰りの会に「ほめほめタイム」を実施し、クラス全体で互いのよさを認め合ったり、個を尊重するようなプラスの言葉かけを意識したりすることで自己肯定感や自己有用感を高めていけるようにしたい。

●「クラスは発言しやすいふん囲気である。」の設問では、肯定割合が66.7%で、県の肯定割合を16.2ポイント下回っている。また「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の設問では、肯定割合が40%で、県の肯定割合を10.6ポイント下回っている。児童が自信をもって自分の考えをもつことができ、発表することができるよう、協働的な授業、分かる授業を展開する。また、常に互いを認め合えるような温かいクラスの雰囲気作りを心掛ける。